

## 浜田港運 (浜田市)

### ◆3◆ 「コンテナ」



輸入量の増加が期待されるPKS（やし殻バイオマス燃料）の積み降ろし作業＝浜田市長浜町、長浜埠頭

平成に入ると年々増加する大型船の入港に対応するため、長浜埠頭の対湾にあたる福井地区に大型船岸壁の福井埠頭が整備された。21世紀を迎えた平成13年には、国際コンテナ航路が就航して取扱量が年々増大している。また、本社社屋を新築して業務の効率化などを進めた。

#### 大型船に対応 新岸壁整備

大型船の入港が増えるのに伴い、港湾整備を求めた声が



平成6年の浜田港振興会設立総会

日ごとに強まり、平成3年には中国横断道 広島浜田線56・6の全通もあって広島の外港として期待が高まったことから、浜田市長、浜田商工会議所会頭、県合板協同組合理事長らが発起人となり、官民96団体によって浜田港整備促進同盟会が設立された。

さらに、6年には環日本海時代を迎え、国際物流の拠点として大規模港ではできない、きめ細かいサービスによる発展を目指し、ハード、ソフト両面にわたる港湾施策を図るため、島根県、浜田市、会員企業の出資で浜田市長を会長とする浜田港振興会が設立された。

関係行政機関、港湾関係機関・企業との連携を図りながら各種施策を進め、現在は主に、港の振興に関する広報宣



福井地区の5万㎡パースの起工式

## 韓国・釜山と国際定期航路 輸入にも小口の貨物を混載

木材運搬船が北米の松材5千500立方メートルを積んで入港した際、着岸できないため、300トン沖に停泊して木材を海上に降ろすというハブニングがあった。3万トンの初入港で、さらなる木材需要が見込まれたことから、福井地区に大型船岸壁の建設を望む声が強まったことが背景にある。

#### 福井事務所を開設

この大型岸壁の完成を待ち望んでいたように、平成13年3月、韓国の南星海運による釜山との国際定期コンテナ航路が就航し、浜田港運も浜田CFS（コンテナ上屋）に福井事務所を開設した。



インドネシアから輸入された合板

路の定期化以前にもトライアルとして台湾から機械などを輸入して実績を積み上げてきたが、機械設備がなく、他港へ援助を求めながらの作業だった。

コンテナ航路ができるまでは、ばら積み貨物を扱うバルク港としての機能しかなく、国内の他港がコンテナ化していくなか、ようやく46番目の開設だった。しかし、近隣に工場群がなく、県、市を含めて貨物集めに苦勞する日々が続いた。

ベリースカーゴ（主力貨物）のなきから苦戦が続いたため、浜田港運は取り扱い作業料金を大幅に値下げして貨物の集荷に活路を求めた他、輸出だけだった小口貨物の混載を15年から輸入でも始めた。

これら長年の努力が実を結び、取扱量は初年度が538



初入港した海外コンテナ船の前でのテープカット



設置された大型クレーン

TEU（20フィートコンテナ1個分換算）だったものが26年度は6・3倍以上の3414TEUまで拡大している。輸入は染料・塗料・合成樹脂、化学薬品、非金属鉱物が3分の2を占め、輸出は原木、再利用資材、非金属鉱物が7割を占める。

#### 新社屋完成し事務所一本化

この間、平成元年に常務の宮下義重が父・又一の後を継いで3代社長に就任した。

宮下義重は国際コンテナの就航、利用増に尽力するなど港の発展に尽くし、浜田植物検査協会会長、浜田ライオンズクラブ会長、浜田商工会議所副会頭、浜田法人会会長な



コンテナ上屋の完成式

どを歴任している。

平成14年12月には、旧事務所近くの現在地に木造一部2階建ての新社屋が完成し、分散していた事務所を一本化した。

新社屋は浜田税関支所や浜田海上保安部が入居する港湾合同庁舎の隣接地で、約500平方メートルの敷地に、旧本社の約3倍の370平方メートルの床面積を確保した。

事務所の一本化は、長浜岸壁そばに平成2年に便宜的に開設して主に通関や船舶代理業、検査などを手掛けていた海運部事務所を本社機能に統合した。

（敬称略）  
次号に続く  
（榎原正之）

【会社概要】  
▽所在地 浜田市長浜町1785-7  
▽営業項目 港湾荷役・通関業など  
▽代表者 山本 洋浩  
▽従業員数 44人  
▽電話番号 0855-27-0072